

TR-IT-0082

音声翻訳通信研究所ユーザズマニュアル

User's Manual

小杉 幹男	加藤 初子	中井 隆浩
Mikio Kosugi	Hatsuko Katoh	Takahiro Nakai

1994.11

概要

本資料では、音声翻訳通信研究所内で使われている、エディタを始めとする一般ユーザを対象とした、ソフトウェアやコマンド等の使用方法の概略の説明及び、研究所内のシステム環境についての大まかな説明を述べています。

©ATR音声翻訳通信研究所

©ATR Interpreting Telecommunications Research Laboratories

音声翻訳通信研究所
ユーザーズマニュアル

小杉 幹男
富士ゼロックス情報システム

加藤 初子
中井 隆浩
UNISS

T S G 技術メモ

シリーズまえがき

研究開発とは、科学的独創と技術力との均衡のとれた成長の過程である。1993年、ATR人間情報通信研究所とATR音声翻訳通信研究所は、この成長をより確かなものにするため、技術スタッフメンバーによる新しい研究技術支援活動を開始した。グループはTSG（テクニカルサポートグループ）と呼ばれ、主にソフトウェア開発と計算機及び実験機器を含む研究環境の運用とを担当する。

このTSG技術メモシリーズは、研究所に固有の計算機ネットワーク環境やプログラムライブラリに関する案内書や、実験報告書、最新の技術ニュース等の技術情報を研究所内で効果的に流通させることを目指してTSGが編集するものである。毎回の出版は、既存のATRテクニカルレポートとネットワーク上で公開される電子出版との体裁を併用して行う。

TSG業務はまだ始まったばかりである。しかし、TSGメンバー一同、その業務が研究活動の重要な一翼を担っていることを真摯に受け止め、最善の支援を達成すべく全力を注ぐ所存である。本シリーズが多くの読者にとって有用な情報源になれば幸いである。

1994年2月

片桐 滋

技術スタッフ代表

ATR人間情報通信研究所TSG (TSG-HIP)

ATR音声翻訳通信研究所TSG (TSG-ITL)

著作権：1994 ATR音声翻訳通信研究所

TSG Technical Memorandum

Series Preface

Research and development combine to form a well-balanced growth process involving scientific creativity and technological ability. In 1993, in order to make this growth firmer, technical staff members of ATR Human Information Processing Research Laboratories (HIP) and ATR Interpreting Telecommunications Research Laboratories (ITL) formed a group and started a new technical support activity. This group is called the Technical Support Group (TSG) and its main tasks are to handle software development and maintain proper research environments that include computers and experimental equipment.

The new TSG activity involves the compilation of a series of TSG Technical Memorandums for the purpose of circulating technical information around the various ATR laboratories. Among them are guidebooks to computer network environments and program libraries specific to the different laboratories, experimental reports, and hot news about emerging techniques. Each volume of the series is published in an electronic form as well as in the standard printing form of the ATR Technical Report to increase access convenience.

Although this activity has only just begun, we will do our best to achieve the highest quality of support in the hope of playing an important role in the ATR research activities. We all hope for this series to be a useful information source for many readers.

Shigeru KATAGIRI

Administrative Member of Technical Staff
ATR Human Information Processing Research Laboratories TSG (TSG-HIP)
ATR Interpreting Telecommunications Research Laboratories TSG (TSG-ITL)

(February 1994)

Copyright © 1994 by ATR Interpreting Telecommunications Research Laboratories

目次

1	音声翻訳通信研究所の環境	1
1.1	システムの構成	1
1.2	IP アドレス	2
1.2.1	ATR 内のネットワーク	2
1.2.2	音声翻訳通信研究所内サブネット	3
1.3	NIS	4
1.4	オートマウント	4
2	簡単コマンド	7
2.1	はじめに	7
2.2	ログイン	7
2.3	簡単コマンド	9
3	フリーソフトウェア	15
3.1	はじめに	15
3.2	エディタ	15
3.3	ターミナル	15
3.4	文書作成 (TeX)	15
3.4.1	TeX コマンド	15
3.4.2	プレビューア	16
3.4.3	ポストスクリプトへの変換ツール	16
3.5	作図ツール	16
3.6	グラフ作成	16
3.7	ポストスクリプトファイルのプレビューア	16
3.8	イメージ関連	16
4	エディタ (mule)	19
4.1	はじめに	19
4.2	Mule の起動と終了	19
4.2.1	Mule の起動	19
4.2.2	Mule の終了	19
4.2.3	困った時の回避策	19
4.3	日本語の入力	20
4.3.1	ローマ字かな変換モード	20
4.3.2	ローマ字かな変換	20

4.3.3	かな漢字変換	20
4.3.4	文節間の移動と文節区切りの変更	20
4.3.5	変換結果の確定	20
4.3.6	入力のキャンセル	20
4.4	辞書登録	21
4.4.1	登録文字列の指定	21
4.4.2	辞書登録コマンドの起動	21
4.4.3	読みの指定	21
4.4.4	辞書の指定	21
4.4.5	品詞の指定	21
4.5	英数字および記号の入力	21
4.5.1	全角英数字の入力	21
4.5.2	半角英数字の入力	21
4.5.3	記号の入力	21
4.6	Mule の編集コマンド	22
4.6.1	カーソル移動	22
4.6.2	画面のスクロール	22
4.6.3	文字の挿入	22
4.6.4	文字の削除	22
4.6.5	ファイル操作	22
4.6.6	コマンドの取消	23
4.6.7	コマンドの中止	23
4.7	検索	23
4.7.1	検索コマンドの開始	23
4.7.2	検索コマンドの終了	23
4.8	ウィンドウ操作	23
4.9	印刷	23
4.9.1	全体の印刷	23
4.9.2	部分の印刷	24
5	メール	25
5.1	はじめに	25
5.2	mh(mail)	25
5.2.1	設定	25
5.2.2	mail を読む	27
5.2.3	mail を送る	27
5.2.4	フォルダー機能	28
5.3	mail(mule)	30
5.3.1	設定	30
5.3.2	mail を読む	30
5.3.3	mail を送る	30
5.3.4	mail を送る	31
5.4	別名定義など	31
5.4.1	音声翻訳通信メールグループ	31

6	ニュース	33
6.1	はじめに	33
6.2	GNUS(mule)	33
6.2.1	ニュースを読む	33
6.2.2	ニュースを投稿する	34
6.2.3	記事にフォローする	35
6.2.4	記事の投稿者に mail を送る	35
6.2.5	投稿記事のキャンセル	36
6.3	rnews など	36
6.3.1	rnews(mule)	36
6.4	投稿時の注意点	36
6.5	ATR ニュースグループ	37
6.6	mail からの news post について	38
7	リクエストボックス	39
7.1	はじめに	39
7.2	利用方法	39
7.2.1	作業依頼を行なう場合	40
7.2.2	作業依頼一覧表を取得する場合	44
7.3	利用するにあたって	46
8	モデムによる接続について	49
8.1	はじめに	49
8.2	atr-modem	49
8.2.1	登録	49
8.2.2	注意事項	49
8.2.3	接続	50
A	プリンター配置図	51

第 1 章

音声翻訳通信研究所の環境

1.1 システムの構成

音声翻訳通信研究所では、基本的に研究員 1 人に 1 台のマシン環境を提供しています。計算機システムは、以下のマシンからなっています。

表 1.1: 音声翻訳通信研究所計算機システムを構成するマシンの種類

種類	マシン名	機能
各研究員のマシン	as*, atrq*, atra*, atrh*	各研究員が常時使用しているマシンである
ファイルサーバ	aus, aun, al	すべてのマシンで共有される directory を保有している
ローカルファイルサーバ	as04, atrqfs, atrhfs, as57, itllb*	各サブネット毎に用意されたファイルサーバ
メール, ニュースサーバ	atr-la	メール, ニュースに関するサーバマシン
デモマシン	as26, atrh13, atrh20	デモを行なうマシンで、デモルームに設置されている
GlobalView マシン	as101 ~ as115	GlobalView の使えるワークステーション
並列マシン	ksr*, mp2, atr-sq	並列処理専用のマルチ CPU マシン
Lisp マシン	xl01, xl02	Symbolics Lisp マシン
その他 UNIX マシン	as02, pl01, as17	特殊用途 (実験用) マシン
その他	mac*, anext*	Macintosh 及び NeXT
NIS サーバ	itlyp0, aus, aun	NIS の master 及び slave server マシン

これらのマシンは、音声翻訳通信研究所内の 9 本のサブネット (itlssun-net, itldemo-net, itlmac-net, itlxns-net, itldec-net, itlhp-net, itlnsun-net, itllbl-net, itlpahi-net) のいずれかに接続されています。

デモマシン用のサブネット (itldemo-net) 以外の各サブネットは、ルータ (itlgw) を介し、ATR のバックボーンネットワーク (ATRNET) と接続され、デモマシン用のサブネット (itldemo-net) は、ルータ (itldemogw) を介して itllbl-net と接続されています。

また itlpahi-net はルータ (pahigw) を介し、人間情報通信研究所内のネットワークへも接続しています。

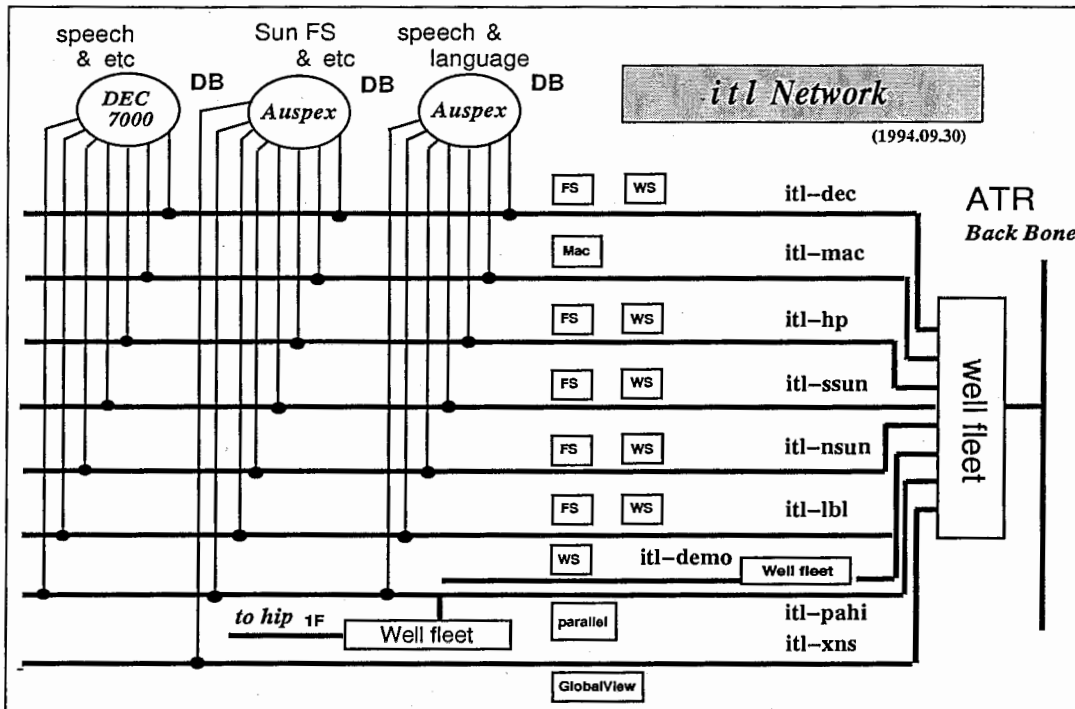


図 1.1: 音声翻訳通信研究所計算機及び Network 構成

1.2 IP アドレス

1.2.1 ATR 内のネットワーク

ATR では、IP アドレスとして InterNIC により与えられたものを使用しており、WIDE プロジェクトにアクセスしています。WIDE プロジェクトでは、IP アドレスとして class B を用いており、ATR の IP アドレスは、133.186.*.* です。ATR では、この IP アドレスからさらに各研究所単位でサブネット化し、アドレスを決定しています。

表 1.2: ATR 内の IP アドレス

名称	IP address
ATR 基幹	133.186.1
国際電気通信基礎技術研究所	133.186.10
通信システム研究所	133.186.20
音声翻訳通信研究所	133.186.30
人間情報通信研究所	133.186.40
光電波通信研究所	133.186.50

1.2.2 音声翻訳通信研究所内サブネット

音声翻訳通信研究所の IP アドレスは、133.186.30.* から 133.186.38.* を使用し、サブネット毎に9つに割り振っています。

また、ファイルサーバ (aus, aun, al) は、複数のサブネットに接続していますので、接続されているサブネットの数だけ IP アドレスを持ちます。

表 1.3: 音声翻訳通信研究所内のサブネット

network 名	IP address	接続されているマシン
itlssun-net	133.186.30	南館側 Sun マシン
itldemo-net	133.186.31	デモルームのデモマシン
itlmac-net	133.186.32	Macintosh
itlxns-net	133.186.33	GlobalView マシン
itldec-net	133.186.34	DEC マシン
itlhp-net	133.186.35	HP マシン
itlnsun-net	133.186.36	北館側 Sun マシン
itllbl-net	133.186.37	ラベラー用 DEC マシン
itlpahi-net	133.186.38	並列マシン

1.3 NIS

ユーザ数、マシン台数が増加してくると、ユーザ id ・グループ id 等のユーザ固有の情報や、それ以外のシステム全体で使用される情報の統一がとりづらくなってきます。そのため、音声翻訳通信研究所では NIS (Network Information Service) を使用し、それらの情報の統一、及びシステム管理作業の簡便化をはかっています。

音声翻訳通信研究所では、NIS により以下のファイル情報をサービスしています。

表 1.4: NIS によりサービスしている情報

ファイル名	用途
hosts	host 名と IP address の設定
passwd	パスワード等の login 情報の設定
group	グループの設定
networks	ネットワーク名の設定
netgroup	ネットグループの設定
rpc	remote procedure call の設定
services	ネットワークサービスの設定
protocols	プロトコルの設定
auto.*	オートマウントの設定

これらの情報を知りたい場合は、ypcat コマンドで表示させることができます。

但し、これらの情報は、サーバから自動的に配布されますのでクライアント側からは特に意識する必要はありません。

1.4 オートマウント

NIS によって配布される、オートマウント用の情報に従い、各マシンではオートマウントを行なっています。オートマウントは、アクセスに応じて自動的にマウントを行ない、一定時間アクセスがなければマウントを外します。

このオートマウントの機能によって、音声翻訳通信研究所では、次のようなディスクへのアクセス（ディレクトリへの移動）が可能です。

表 1.5: オートマウントにより移動可能なディレクトリ

ディレクトリ名	内容
/home/ マシン名	そのマシンのユーザ用ディスク 1 (通常ホームディレクトリがある)
/data/ マシン名	そのマシンのユーザ用ディスク 2
/data1/ マシン名	そのマシンのユーザ用ディスク 3
/DB/*	共用データベース
/dept1/*	第 1 研究室用共用ディスク
/dept2/*	第 2 研究室用共用ディスク
/dept3/*	第 3 研究室用共用ディスク
/dept4/*	第 4 研究室用共用ディスク
/server/*	共用ディスク (主にソフトウェア)

これらのディレクトリへは、通常のディレクトリ同様 `cd` コマンドで移動できます。また、ホームディレクトリの記述として「`~`」も使用できます。(例: `cd ~kosugi`)

※これらのディレクトリは、アクセスされた時に初めてマウントされますので、それまではディレクトリ名としても存在しません。どういうディスクがどういうディレクトリ名でアクセスできるかは、`xmosaic` 等で参照して下さい。

※各ユーザのホームディレクトリは、他のユーザでもマウントがかけられますので、パーミッションを設定するなどして、セキュリティには充分気をつけるようにして下さい。

第 2 章

簡単コマンド

2.1 はじめに

この章では、自分の目の前にあるコンピュータから UNIX の世界に入り UNIX のコマンドで、簡単かつ最低限知っておけば便利と思われるものについて、あげていきたいと思います。きっと貴方のお役に立てるでしょう。

2.2 ログイン

CRT の電源を ON にすると、CTR 中央部分に

login:

passwd:

又は左端に

login:

と言う表示があると思います。

login には、貴方のアカウント名を入力し、リターンを入力します。

login だけの表示の場合は、login 名を入力すると passwd 入力を求めて来ます。

passwd には、貴方だけが知っているはずのパスワードを入力し、リターンを入力します。

最初は、何度か失敗するかもしれません。アカウント名が違っていたりパスワードが違っていたりすると、Login incorrect の表示がありますので、再度アカウント名の入力から始めて下さい。Login incorrect の表示がない場合には、めでたくこの段階で UNIX の世界に入る事になります。この処理の事をログインと言います。ログイン後は、X ウィンドウが自動で開かれるタイプのマシンとそうでないマシンがあります。後者の場合には、xinit (又は xstart) リターンを入力します。

ここで注意点

はじめて貴方がコンピュータにログインする時には、管理者が決めたパスワードが仮に設定されています。

ログイン後すぐにパスワードの変更をしましょう。

パスワードは、英文字から始まる英数字 (キーボード上の記号も含む) で設定して頂く訳ですが、普通の単語や数字、家族の名前、姓、名、等での設定はしないでおきましょう。ヒントとしては、ある単語の一部にスペースをいれたり、一部を大文字にしてみるとか単語を組み合わせてみる等、辞書で引けない様な単語を作り出して下さい。あまり複雑過ぎたり、全然意味のない単語などは自分で決めたパスワードなのに忘れてしまう可能性があります。

パスワードは忘れない様にしましょう。

又、設定したパスワードの変更依頼 mail が、root から届いた場合にはすぐに変更する様にしましょう。

パスワードの変更は

- Sun, HP の場合は, passwd + リターン, 又は yppasswd + リターン
 - Dec の場合は yppasswd + リターン
- を入力しますと, 以下の様な問い掛けが返ってきます。

Changing (yp,NIS) password for YOURE_NAME

Old (yp) password:

ここに, 変更前のパスワードを入力しリターンを入力します。

以下の問い掛けが返ってきます。

New password:

ここで, 新しいパスワードを入力しリターンを入力します。

再度以下の様に入力を求めて来ますので, 再入力して下さい。

Retype new password:

以下の様なメッセージが表示された場合には, パスワードは変更されていませんので最初からやり直して下さい。

Mismatch - password unchanged.

Couldn't change the NIS passwd.

Error from itlyp0: Password incorrect

これで, パスワードの変更は終了です。

パスワードの保護はもちろんの事ですが, 貴方が暫く席を外す場合には xklock 等のコマンドでマシンを保護しましょう。又, 出張等で長期間にわたって席に着く可能性がない場合には, 必ず exit をしておきましょう。

2.3 簡単コマンド

コマンドは、無事に UNIX の世界にログインしてから使用出来る様になります。
 ここでは簡単に説明をしたいと思います。詳細についてはオンラインマニュアル等をごらん下さい。
 以降の説明は、
 NAME@MACHINE> (プロンプト) 以降に入力し、リターンキーで答えが返ってきます。

1. pwd

今、自分のいるディレクトリが分かります。

```
/home/machine/name
```

2. who am i

私は誰でしょうか？

```
atrq23!katoh  ttyp3  Sep 19 13:34  (:0.0)
```

3. w

今、このマシンに誰がログインして何をしているの？

```
4:39pm up 13 days, 9:32, 8 users, load average: 0.60, 0.59, 0.77
User      tty      login@  idle   JCPU   PCPU   what
shiomis  ttyp0    2:53pm  1:45           -csh
kita     ttyp1    Sun 6pm  3days    1     -tcsh
kobayasi ttyp2    11:20am  2:13           rlogin ikoma
```

4. ls -options

ファイルのリストを見る事が出来ます。オプションの後ろにディレクトリの指定をする事も出来ます。

```
ex)
ls -agl
drwxr-xr-x 26 katoh  users      2048 Sep 21 15:05 .
drwxr-xr-x  6 root   system     512 Jun  8 15:00 ..
:
:
drwxr-xr-x  2 katoh  users      512 Jan 31 1994 uniform
drwxr-xr-x  3 katoh  users      512 Aug  1 17:33 work
:
```

ここでリストに表れている内容について1部説明します。

d ディレクトリ

1 シンボリックリンク (実態先のディレクトリが -> の型で表示されます)

r リード権
 w ライト権
 x 実行権
 - 参照不可

- 2文字目から3文字 : 所有者の許可
- 次の2文字 : 同グループに対する許可
- 最後の3文字 : その他一般ユーザに対する許可

- 次の数字 : 自分の上下にあるファイルやディレクトリとの継り数
- ユーザー名 : 所有者
- オプションで g を指定するとグループ名が表示されます
 (*HP は -l オプションのみでグループ名が表示されます)

5. groups

自分の所属しているグループの確認をします。

```
groups
users itl
```

6. cd

ディレクトリを移動する場合に使用します。

```
cd /tmp (/tmp に移動)
cd のみで自分のホーム
```

7. mkdir

新しいディレクトリを作る事が出来ます。ディレクトリを作成してファイル別等に管理をすると便利です。

```
mkdir test (test というディレクトリを作成)
```

8. rm, rmdir

ファイル又はディレクトリの削除を行ないます。rmdir はディレクトリ中にファイルが残っていると処理しません。

```
rm tmp/test (ホームの tmp というディレクトリ内の test というファイルを削除)
rm -r test (ホームの test というディレクトリを削除)
```

```
rm -rf (現在, -i オプションがデフォルトで設定されていますので無効にする。)
```

-i オプションは、削除実行前に確認処理を行なう)

9. cat

データの連結や出力を行ないます。

```
cat file-1 > fail-2 (file-1 を file-2 に出力)
cat file-2 >> file-3 (file-2 を file-3 の末尾に出力)
cat file-3          (file-3 を CRT に出力)
```

10. more, less

ファイルを1画面ずつ表示します。

```
more file-3
less file-3
```

- スペース, F : 次画面の表示
- リターン : 次行の表示
- B : 前画面の表示
- 他

11. cp

ファイルのコピーを行ないます。

```
cp file-1 file-1.bak (file-1 を file-1.bak にコピー)
```

12. mv

ファイルの移動, ファイルのリネーム。

```
mv file-1 file-2 (file-1 を file-2 に移動)
```

13. chmod

ファイルのアクセス権の変更を行なう場合に使用します。

```
chmod 644 file-1 (所有者は読み書き, 他は読み込みのみ)
```

- 600 所有者のみ読み込み, 書き込み
- 664 所有者, 同グループの読み込み, 書き込み。他のユーザは読み込みのみ

- 640 所有者の読み込み, 書き込み。同グループの読み込み。

又は

- g+rw グループに読み込み, 書き込み
- o+r 一般ユーザに読み込み
- g+x,o+x グループ, 一般ユーザに実行権
- g-w グループの書き込み不可
- 他

14. umask

ファイル作成時にアクセス権を設定します。

```
umask 37 (37 はマスク値)
ls -l file-1
-rw-r----- 1 user          18 Sep 22 13:26 file-1 (ls で確認)
```

{ログインした時に常に同じモードでファイル(ディレクトリ)を作成したい場合には, .cshrc に記述しておく事ができます。}

- 400 所有者に読み込み許可を与えない
- 200 所有者に書き込み許可を与えない
- 100 所有者に実行許可を与えない
- 40 グループに読み込み許可を与えない
- 20 グループに書き込み許可を与えない
- 10 グループに実行許可を与えない
- 4 一般ユーザに読み込み許可を与えない
- 2 一般ユーザに書き込み許可を与えない
- 1 一般ユーザに実行許可を与えない

上記の数字を加算した値をマスク値として与えます。

15. ps -options

ps コマンドを実行した時点でのプロセス状態を出力します。

```
ps
  PID TT STAT  TIME COMMAND
 11393 p0 I    0:01 -tcsh (tcsh)
 11398 p1 I    0:03 -csh (tcsh)
 14878 p1 S    1:43 mule v2users.tex
 11434 p2 I    0:00 -csh (tcsh)
 11438 p2 S    0:30 test
```

16. `kill -signal process-no`

指定プロセスにシグナルを送ります。

通常はプロセスの中止などに使用します。

```
kill -9 11438 (test というプロセスの強制終了)
```

17. `lpr -options printer-name`

指定ファイルをプリンタ出力のプールに保存し、順番がきたらプリンタに出力します。

```
lpr -Pimg file-1 (file-1 というファイルを img というプリンタに出力)
cat file-2 | nkf -a | lpr -Pimgk
                    (file-2 というファイルの漢字にモードを変更して imgk という
プリンタに出力)
```

18. `lpq -options printer-name`

プリンタキューのプール状態を確認します。

```
lpq -Pimg (img というプリンタのキュー状態)
```

19. `lprm -Pprinter-name ID`

`cancel printer-name ID` (HP の場合)

プリンタのキューに溜ったものを削除しプリンタへの出力を中止します。

```
lprm -Pimgk 10 (lpq で得られた IDno 10 の出力を中止)
cancel 10 imgk (lpq で得られた IDno 10 の出力を中止)
```

尚、以下のプリンタが用意されています。配置につきましては、プリンタ配置図を御覧下さい。

- ac
A Color
- gws
Japanese News Print Printer
- ojiro
QMS1060 Print System Junior
- im
Imagen Printer
- qtaro
QMS1060 Print System Junior

- gwn
GW1160 Japanese News Print Printer
- img
Imagen Printer
- imgk(img)
Kanji
- imgkl(img)
Nombering
- ps-ipu
Canon PS-IPU Color Copier
- ntx
Apple Laser Writer NTX-J
- LaserWriterPro
for MAC
- lisa
for MAC

20. man *command*

オンラインマニュアル

man man (man コマンドの使用法等を表示)

21. ^Z (コントロールと Z キー)

ジョブの中断を行ないます。

22. jobs

自分の実行しているジョブ No を確認します。

この No で、ジョブの再開や強制終了等を行う事が出来ます。

23. fg

中断ジョブの再開を行ないます。

24. bg

中断ジョブをバックグラウンドで再開させます。

25. exit

UNIX の世界とさよならします。

CRT 左上の TWM Icon Manager 中の LOGIN WINDOW をクリックして下さい。CRT 右上にコンソールが表示されますので、そこで入力して下さい。

第 3 章

フリーソフトウェア

3.1 はじめに

音声翻訳通信研究所では、数多くのフリーソフトがインストールされています。各マシンでは、`/usr/local` 以下に置かれています。

ここではその中からよく使われるものをここで紹介します。

また、ここではあくまでも紹介しかしませんので、詳しい解説については、オンラインマニュアル等をご参照下さい。

3.2 エディタ

- mule

次章の操作説明を御覧下さい。

- emacs

mule のベースになっている大変高機能な GNU のエディタです。

3.3 ターミナル

- xterm

X-Window を用いた端末エミュレータです。

- kterm

X-Window を用いた漢字端末エミュレータです。

3.4 文書作成 (T_EX)

3.4.1 T_EX コマンド

- tex

テクニカルレポート等の作成に使われる組版ソフトです。

- latex

機能強化された T_EX です。

- jtex
日本語 T_EX です。

- jlatex
日本語 L^AT_EX です。

3.4.2 プレビューア

- xdvi
dvi 形式のファイルを表示させるソフトです。

3.4.3 ポストスクリプトへの変換ツール

- dvi2ps
dvi 形式のファイルを、ポストスクリプトに変換するソフトです。

3.5 作図ツール

- idraw
InterViews 附属の作図ソフトです。
- tgif,tgif+
X-Window を用いた作図ソフトです。

3.6 グラフ作成

- xgraph
X-Window を用いたグラフ作成ソフトです。
- gnuplot
GNU の対話型プロットソフトです。

3.7 ポストスクリプトファイルのプレビューア

- gs(ghostscript)
日本語ポストスクリプトに対応した、ポストスクリプトファイルを表示させるソフトです。
- ghostview
gs を利用した、ポストスクリプトファイルを表示させるソフトです。

3.8 イメージ関連

- xwpick
ウィンドウ単位や範囲を指定してハードコピーをとるソフトです。

- xgrabsc

範囲を指定してハードコピーをとるソフトです。

- xv

さまざまなフォーマットのイメージデータを表示することのできるソフトです。

第 4 章

エディタ (m u l e)

4.1 はじめに

Mule は、GNU Emacs を複数の言語に対応できるように強化したエディタです。「たまご」とは Mule 上の日本語環境 (かな漢字変換や日本語文書処理機能のこと) です。この章では、始めて Mule に触れる人を対象に文書が作成できるまでについて説明します。

4.2 Mule の起動と終了

4.2.1 Mule の起動

Mule を起動するには、mule と入力するか、ルートウィンドウのメニューの「Editor(Programs->Editor)」を選択して下さい。

[起動] `NAME@MACHINE<1> mule`

- `-nw` このオプション (No Window) をつけると、ウィンドウを新たに作らずに、コマンドを入力したターミナル上で mule が起動します。

4.2.2 Mule の終了

Mule を終了するには、Ctrl (または Control) と書いてあるキーを押しながら `x` を入力 (`C-x`) し、続けて Ctrl (または Control) と書いてあるキーを押したまま `c` と入力 (`C-c`) して下さい。

[終了] `C-x C-c`

4.2.3 困った時の回避策

Mule の中でよくわからないメッセージが表示されて、入力ができなくなった時は、Ctrl (または Control) と書いてあるキーを押しながら `g` を入力 (`C-g`) してみてください。多くの場合、もとに戻って入力し直せるようになります。

[困った時] `C-g`

4.3 日本語の入力

4.3.1 ローマ字かな変換モード

まず、C-¥ (または C-\) と入力して下さい。左下の表示が [ー] から [あ] と変化します。これは入力した文字をローマ字と解釈し、それをひらがなに変換することを示します。

ローマ字かな変換モードを抜ける時はもう1度 C-¥ (または C-\) と入力します。

[ローマ字かな変換モード] C-¥ (C-\)

4.3.2 ローマ字かな変換

ローマ字かな変換モードでローマ字を入力すると自動的に「かな」に変換され、その範囲が |と| で囲まれます。

ローマ字は「ん」を除き全て小文字で入力して下さい。「ん」は「N」で入力できます。「ぁ (小さい「あ」)」は「xa」で入力できます。

4.3.3 かな漢字変換

|と| で囲まれた範囲の「かな」は漢字に変換することができます。SPC を押して下さい。次候補を表示したい時はさらに SPC を押します。

(一度 SPC を押し、候補を表示させている状態であれば、C-SPC で一覧を表示させることが可能です)

また、前の候補に戻りたい時は、C-p です。

[かな漢字変換] SPC

4.3.4 文節間の移動と文節区切りの変更

カーソルのある文節をそのままにして次の文節に進みたい時は、C-f と入力して下さい。もう一度前の文節に戻りたい時は、C-b です。文節区切りを変更したい場合、C-i でカーソルのある文節の長さを短くできます。C-o でカーソルのある文節の長さを長くできます。

SPC	次候補を表示する
C-p	前候補を表示する
C-f	直後の文節へカーソルを移動する
C-b	直前の文節へカーソルを移動する
C-i	文節の長さを短くする
C-o	文節の長さを長くする

4.3.5 変換結果の確定

|と| の間の文字列を確定したい場合はリターンキーを押します。そのまま次の文字を入力しても自動的に確定されます。

4.3.6 入力のキャンセル

入力途中でとりやめてもう一度やり直したい場合は、C-g と入力します。

[キャンセル] C-g

4.4 辞書登録

4.4.1 登録文字列の指定

まず、登録したい文字列の最初の文字にカーソルを移動し、C-SPC と入力します。画面下の領域に Mark set と表示され、そこにマークがつけられます。次に、登録したい文字列の最後の文字の右横にカーソルを移動します。

4.4.2 辞書登録コマンドの起動

まず、ESC と書いてあるキー（DECstation,alpha では F11）を押してから x と入力します。画面下の領域に M-x と表示されます。次に、toroku-region と入力し、リターンキーを押します。

[辞書登録] M-x toroku-region

4.4.3 読みの指定

読みを聞いてきますので、ローマ字で入力して下さい。入力できたらリターンキーを押します。

4.4.4 辞書の指定

登録する辞書を聞いてきますが、ユーザ辞書を 1 種類しか指定していませんので、そのままリターンキーを押して下さい。

4.4.5 品詞の指定

品詞一覧を表示し、品詞を聞いてきます。C-f、C-b でカーソルを右、左に動かし、適当なものにあわせてリターンキーを押して下さい。

4.5 英数字および記号の入力

4.5.1 全角英数字の入力

全角数字はローマ字かな変換モードで数字キーを押すことにより入力できます。

全角英字はローマ字かな変換モードで大文字 Z と組み合わせることにより入力できます。例えば、「A」は「ZA」で、「a」は「Za」で入力できます。

4.5.2 半角英数字の入力

半角英数字は、C-¥（または C-\）と入力し、左下の表示を「--」としてから、通常の操作と同様に入力して下さい。

4.5.3 記号の入力

小文字 z と英数字の組合せで入力しますが、多くのものは言葉で入力し、候補の中から選択できます。（例：「○」の場合に「まる」と入力、「・」の場合に「てん」と入力）

4.6 Mule の編集コマンド

4.6.1 カーソル移動

		前の行, C-p(Previous)		
		:		
		:		
後ろの文字, C-b (Backword)	現在のカーソル位置	先の文字, C-f (Forward)
		:		
		:		
		次の行, C-n(Next)		
C-f		一文字先へ進む		
C-b		一文字後へ戻る		
C-n		次の行へ移動する		
C-p		前の行へ移動する		
C-a		行の最初へ移動する		
C-e		行の最後へ移動する		

4.6.2 画面のスクロール

C-v	前へ一画面分進む
ESC v	後ろへ一画面分戻る
ESC <	ファイルの最初へ移動する
ESC >	ファイルの最初へ移動する

4.6.3 文字の挿入

挿入したい位置にカーソルを移動し、任意のキーを押せば自動的に挿入されます。

4.6.4 文字の削除

DEL	カーソルの直前の文字を削除する
C-d	カーソルのある文字を削除する
C-k	カーソルの位置から行末までを削除する

4.6.5 ファイル操作

C-x C-f	既存のファイル呼びだし、編集する (Find)
C-x C-s	ファイルを保存する (Save)
C-x C-w	ファイルに書き出す (Write) ファイル名を指定できる

※ Mule 終了時のファイル保存 Mule を終了すると、ファイルの保存が自動的に行なわれます。ファイルが変更されていれば、ファイルの保存をするかどうかを聞いてきますので、y か n を入力して下さい。

4.6.6 コマンドの取消

C-/ 直前のコマンドの取消 (undo)

4.6.7 コマンドの中止

C-g コマンドの中止

4.7 検索

4.7.1 検索コマンドの開始

C-s で検索が始まります。文字を入れるたびに検索が行なわれます。さらに C-s を入力するとその先の文字列が検索できます。検索は、カーソル位置からファイルの先に向かって行なわれます。

※検索文字列に日本語を指定する方法

C-s を入力して文字列を聞いてきた後で、C-k と入力してから C-¥ (または C-\) と入力すると左下の表示が [あ] となり、検索文字列として日本語が入力できます。

4.7.2 検索コマンドの終了

ESC を押して終了します。

4.8 ウィンドウ操作

Mule はいくつものウィンドウを持つことと、そのそれぞれに対してテキストを表示することができます。ヘルプや、いくつかのコマンドからの出力を表示するために現れた余分なウィンドウを消すために、次のコマンドを知る必要があります。

C-x 1	ウィンドウを一つにする
C-x o	別のウィンドウにカーソルを移動する
C-x k	カーソルのあるウィンドウを削除する

4.9 印刷

4.9.1 全体の印刷

ESC x print-buffer で全体の印刷ができます。

[全体の印刷] ESC x print-buffer

4.9.2 部分の印刷

まず、印刷したい範囲を指定します。印刷を始めたい位置にカーソルを移し、C-SPC と入力します。画面下の領域に Mark set と表示されます。次に、印刷を終わりたい位置の右横にカーソルを移動してから、ESC x print-region と入力します。

[部分の印刷] ESC x print-region

第 5 章

メール

5.1 はじめに

ここでは、メールハンドラーと呼ばれている通称 mh と言われているものを中心に説明していきたいと思います。メールを使用すれば、たとえ相手が不在でも用件だけを送信する事が出来ます。また、一人だけに用件を伝えるのではなく多数の人に同じ内容の文章を送る事も出来ます。

受信した側はすぐさま読んで返信しなくても自分の都合に合わせて読んだり、返信したり出来るのでとても便利です。

利用する上での注意事項としては

1. atr-la のホームディレクトリに必ず .forward を設定。(hoshi@itl.atr.co.jp)
(長期出張時などには kato@itl.atr.co.jp 迄御連絡下さい)
2. 目安として外部宛に 50K バイト以上のメールは送らない様にしましょう。
3. 商用目的には使用しないで下さい。
4. bitnet 宛メールは bitnetjp.ad.jp への貴方のメールアドレス登録が必要です。詳しくは hatsuko@ctr.atr.co.jp (又は kato@itl.atr.co.jp) までお問い合わせ下さい。
5. プログラム等バイナリ形式ファイルを送る場合には uuencode コマンドを使用してテキスト形式にしてから送りましょう。(uuencode は uudecode でバイナリにもどす事ができます。)
6. 受信した mail にリプライを返す場合には、To :, Cc: のアドレスをよく確認しましょう。

等があげられます。

5.2 mh(mail)

5.2.1 設定

```
~/mh_profile (MH 用個人環境のセットアップ)
```

ex)
別名の設定

ail: -alias filename
send: -alias filename

filename の様式は

sky: sun@itl.atr.co.jp,cloud@itl.atr.co.jp
の様に, エイリアス名: e-mail アドレスをコンマで区切る

署名

Signature: name OFFICE etc...

=> 環境変数 \$SIGNATURE に変わって採用されます

他はマニュアル参照の事

※以下 C- => Ctrl key , M- => ESC key とします。

5.2.2 mailを読む

M-x mh-rmail

でメッセージを読む事が出来ます。読みたいメッセージ No を選択し, ". " (ピリオド) を入力すればメッセージが表示されます。n で次のメッセージの表示, p で一つ前のメッセージの表示になります。自分の指定したメッセージ (番号で指定) を読みたい場合には

j (以下のメッセージの表示が表れます)

Goto messages :

メッセージ No, リターン入力

とすれば指定番号のメッセージを読む事が出来ます。動作を割り当てられているキーの説明を一部、以降に行ないます。

キー	動作
n	次のメッセージの表示
p	前のメッセージの表示
d	メッセージの削除 (マークを付けるだけでこの時点では実行されません)
u	undo !!
x	実行
a	表示メッセージに返事を出す
i	新しいメッセージの取り込み
M-r	今回取り込んでいる以前のメッセージの取り込み
M-f	フォルダーの変更 (デフォルト名は inbox)
C-p, C-n	削除マークを付けたメッセージへの移動
space キー	順方向スクロール

5.2.3 mailを送る

M-x mh-smail

でメッセージを送る事が出来ます。

To:相手のアドレス

Cc:カーボンコピー (To 以外の相手に同じ内容のメッセージを送付する) 先のアドレス

Subject: mail の内容をまとめた文

複数の相手に mail を送る場合には, To: (Cc:) フィールドに, (カンマ) で区切って書いて下さい。

(例えば To : usagi@itl.atr.co.jp,kame@hip.atr.co.jp)

メッセージ本文は----- 以降に書いて下さい。

本文を書き終ると後は, 自分の署名 (signature) をして発信しましょう。

ホームの .signature を利用する場合には C-c C-s でメッセージの最後に読み込む事が出来ます。メッセージを送信するのは

C-c,C-c

です。Sending...done 送信が終了します。

5.2.3.1 返事を出す場合には (mh-rmail)

a(mh-anser)

mh-anser コマンドを実行すると, ヘッダが自動設定されてバッファの用意がされます。

Reply to whom:

と表示されますので

```
リターンのみ, 又は from (差し出し人のみ)
all
to, cc (差し出し人, カーボンコピー先)
```

のいずれかを入力します。

受け取った発信者のメッセージをそのまま自分のメッセージに反映させたい場合には

C-c, C-y

を入力します。後は自分の残したいメッセージの部分を適当に編集して下さい。

5.2.3.2 自分に届いたメッセージを他の人に転送する場合には (mh-fmail)

f(mh-forward)

を入力すると, To: (Cc:) を尋ねて来ますので

転送先のアドレスを指定し, 適当に自分のメッセージを付けます。

送信時は, 先ほどのメッセージを送る時と同じ方法で行ないます。

5.2.4 フォルダー機能

フォルダーとは, ユーザがメッセージを保存するファイルの事です。

デフォルトメッセージの保存フォルダーは inbox になっています。(フォルダーの変更は可能です)

+inbox のメッセージを別のフォルダーに移すには

o, ^ (mh-refile-msg)

を実行します。

Destination folder? +

と問い掛けてきますので, ファイルしたいフォルダー名を入力します。指定したフォルダーが存在すれば処理を行ないます。存在しない場合には

Folder +*foldernamedoes not exist. Create it?*

と尋ねて来ますので, y を入力すると新しいフォルダーが作成されますが, n を入力すると何もせずに処理を中断してしまいます。保存されるメッセージは, 番号(何番目)になっています。

メッセージを他のフォルダーにコピーする場合には

c(mh-copy-msg)

を実行すると, コピー先のフォルダーを尋ねてきます。しかし, この時点ではまだ実際の処理は行なわれていず, メッセージの削除の実行と同じく x を入力する事によって実行されていきます。

1. 今まで自分が作成したフォルダー名を知る方法は??

- フォルダー名を尋ねられた時にスペースキーを入力します。
- M-x mh-list-folders コマンドを使用します。

2. フォルダーの消去は??

- M-x f で削除したいフォルダーに移動してから
- M-k (mh-kill-folder)

3. 検索機能は??

- M-x mh-search-folder

で pick-pattern バッファと言うのが起動されますので、検索したいパターンのヘッダ部分を入力する事によって条件にマッチしたメッセージを呼び出す事が出来ます。

これらのコマンドは基本的に mule の外からも使用する事が出来ます。inc,refile,scan,pick,rmmf等の command があります。

※mh コマンドについては UNIX MAGAZINE 1992.2 - 1992.4 に詳しく書かれています。

5.3 mail(mule)

5.3.1 設定

~/.mailrc (初期設定の変更をしたい場合)

ex)

```
set ask ==> Subject: を聞いて来る様に設定
set askcc => カーボンコピーの指定 (CC: )
alias    => 別名の設定
           (alias sun usagi@hip.atr.co.jp)
           (alias group usagi,kame)
```

~/.signature (署名)

自分のアドレスや住所を書いたファイル

signature\
を反映させるにはメール発信前に C-c C-w

5.3.2 mail を読む

M-x rmail

でメッセージを読む事が出来ます。このままで読む事も出来ますが、メッセージの表示されたウィンドウで h を入力すると、ウィンドウが分割されて下のウィンドウにこれまで受けとったメッセージの一覧表を表示する事が出来ます。n で次のメッセージの表示、p で一つ前のメッセージの表示になります。自分の指定したメッセージ (番号で指定) を読みたい場合には

C-u, 番号, j

とすれば指定番号のメッセージを読む事が出来ます。h でサマリ、バッファの表示をしない場合でも、次のメッセージの表示、前のメッセージの表示には、それぞれ n, p のキーを使用します。(ウィンドウを元の1つに戻すには C-x 0 を入力) rmail を終了させたい場合には q を入力します。

キー	動作
n	次のメッセージの表示
p	前のメッセージの表示
d	表示メッセージの削除
r	表示メッセージに返事を出す
スペース, C-v	順方向スクロール
M-v	逆方向スクロール

5.3.3 mail を送る

M-x mail

でメッセージを送る事が出来ます。

To:相手のアドレス

Subject: mail の内容をまとめた文

複数の相手に mail を送る場合には、To: フィールドに、(カンマ) で区切って書いていきます。

(例えば To: usagi@itl.atr.co.jp,kame@itl.atr.co.jp)

先ほど説明したカーボンコピーは

Cc:相手のアドレス

で書きます。複数のアドレスを書く場合には To フィールドと同じです。あと、In-reply-to: と言うのを自分で設定し、自分の受け取りたいアドレスを書いておく事も出来ます。又、リプライする場合には Cc: に気をつけましょう。

ここまではメールのヘッダーと言われる部分ですが、本文は

— text follows this line — 以降に書きます。

本文を書き終ると後は

C-c,C-s(mail send)

で相手の方にメールを送る事が出来ます。

また、メール発信後に mail モードを終了する場合には C-c,C-c(mail-send-and-exit)

* rmail で f(mail-reply) の場合も同じ

* rmail で f(rmail-forward) の場合には、To フィールドに複数名を書く事が出来ます。

* mail-reply で、RMAIL の内容を自分の mail に反映させたい場合には

C-c,C-y

※ mail コマンドについては UNIX MAGAZINE 1991.10-1992.1 に詳しく書かれています。

5.3.4 mail を送る

M-x mail

でメッセージを送る事が出来ます。

To:相手のアドレス

Subject: mail の内容をまとめた文

複数の相手に mail を送る場合には、To: フィールドに、(カンマ) で区切って書いていきます。

(例えば To: usagi@itl.atr.co.jp,kame@itl.atr.co.jp)

5.4 別名定義など

5.4.1 音声翻訳通信メールグループ

音声翻訳内では以下のグループが作成されています。例えば 1, 2 研の研究員の方全員にメールを出したい場合には、To: フィールドに dept1@itl.atr.co.jp, dept2@itl.atr.co.jp と指定すれば送る事が出来ます。

1. itl@itl.atr.co.jp : 音声翻訳全員
2. kikaku@itl.atr.co.jp : 企画課
3. dept1@itl.atr.co.jp : 第 1 研究室
4. dept2@itl.atr.co.jp : 第 2 研究室
5. dept3@itl.atr.co.jp : 第 3 研究室
6. dept4@itl.atr.co.jp : 第 4 研究室

7. labeller@itl.atr.co.jp : ラベラー
8. work@itl.atr.co.jp : プログラマー他
9. student@itl.atr.co.jp : 学生
10. tec@itl.atr.co.jp : テクニカルサポートグループ (アドバイザー-研究員含む)
11. tsg@itl.atr.co.jp : 社長, 各室長及び tec メンバー
12. mp-users@itl.atr.co.jp : maspar 利用者
13. ksrusers@itl.atr.co.jp : ksr 利用者
14. AtrItl@itl.atr.co.jp : 音声翻訳通信 (自動翻訳時代を含む) 研究所 OB (OG)
15. w-room@itl.atr.co.jp : 北館作業室
16. 他

メールのヘッダー部分には漢字は使わない事

第 6 章

ニュース

6.1 はじめに

ニュースとは電子掲示板と呼ばれている物で、テーマや議題に応じて色々なグループが形成され、自分の好きなグループだけ購読したり、投稿したりする事が出来ます。ATR では WIDE net との接続によって、国内はもちろん国外のニュースグループを目にする事が出来、当然、ATR ローカルニュースグループも作成されています。ATR ローカルニュースには、ミーティングの連絡やマシン停止の連絡等、重要なニュースが投稿されている場合がありますので目を通す様にしましょう。

6.2 GNUS(mule)

6.2.1 ニュースを読む

M-x gnus リターン

(以下、M- = ESC kye , C- = Ctrl kye とします)

NNTP-based News Reader for GNU Emacs とメッセージ後、未読ニュースの数とニュースグループ名が表示されます。

ミニバッファには

SPC:Select n:Forward p:Backward q:Exit

と表示されます。

- スペース (とリターン) = 選択。

カーソル位置のニュースの表示を行ないます。default No を尋ねて来ますので、

1. リターン のみの場合は表示番号のニュース
2. 番号 を入力すれば指定番号のニュース

この時に上部ウィンドウの方には、そのグループが投稿された順での一覧があります。この時に

1. n キーだけの場合 = 下のニュースの内容の表示も変わります
2. スペースキー = 画面スクロール
3. C-n キー = 一覧表の指定ニュースが変わります (C-p の場合も同じ動きをします)

選択したニュースには D マークが付きます。このマークは q で終了しない限り無視されます。D マークは購読しましたよマークで、次回には同じものは表示されなくなります。

1. q = 処理の終了
 2. j = ニュースグループを尋ねて来ますので、購読したいニュースを指定します。ここで選択の処理をします。
 3. GNUS の終了処理
 - 1) q を使います。
Are you sure you want to quit reading news?(y or n)
と尋ねて来ますので、ここで y で実行、n で無視
(この正常終了した場合に .newsrsrc が更新されて D マーク付きのニュースが次回からは表示されなくなります)
 - 2) C-x C-c (mule の終了)
- 読みたいくないニュースグループを一覧表から消去するには？
消去したいニュースグループの所で u を入力します。
そのグループに u マークが付きます。このマークを付けて正常終了すると次回からは読み込まれなくなります。また、間違っってマークを付けてしまった場合には、もう一度 u を入力するとマークは消えます。
(u マークの付いたニュースグループへの移動は C-n, C-p で出来ます)
 - 表示ニュースをプリントアウトしたい場合は？
ESC-x print-buffer
でプリンターのスプールバッファに溜り、プリントアウトされます。
 - 表示ニュースをファイルにおとしたい場合は？
 - C-x C-w ファイル名の入力を求めて来ますのでファイル名を入力します。
 - o ファイル名の入力を求めて来ますのでファイル名を入力します。
 - ミニバッファが変、どのキーをたたいてもマシンに受け付けられない場合は？
C-g を入力してみてください。一度で駄目なら何回か入力してみましょう。

6.2.2 ニュースを投稿する

M-x gnus-post-news

Are you sure you want to post to all of USENET? (y or n)

と尋ねて来ますので y を入力すると、以下の項目の入力を求めてきます。

Newsgroup : 自分の投稿グループを指定 (カンマ区切りで複数でも可)

Subject : ニュースの内容が一目で把握出来る様な簡単な文章

Distributions : ニュース転送範囲の指定

- local : 音声研ニュースサーバマシンのみ
- itl : 音声研ローカル
- atr : atr ローカル

- nara : 奈良ローカル (京都南部を含む)
 - kansai : 関西ローカル
 - fj, jp, tnn, pin : 全国 (国外の 1 部含む)
 - comp, gnus, alt 他: 国内外
- (デフォルトでは local になっていますので, fj. のグループに投稿する場合は fj)

ここまで入力すると

- text follows this line -

が表示されますので, このラインより下に文章を書き始めます。(1, 2行空けて書き始める)
文章を書き終わると, 自分の署名をします。signature ファイルがあれば勝手に付ける事が出来ます。

さていよいよ投稿。投稿するには

C-c C-c

投稿をやめるには

C-x k

6.2.3 記事にフォローする

f

投稿者の意見を引用しながら, 自分の意見を述べたりする場合に利用します。

フォローしたいニュース表示画面で f を入力すると

Are you sure you want to followup to all of USENET? (y or n)

と尋ねて来ますので y を入力しますと, 投稿時と同じようなウィンドウが開かれて, 投稿者のニュースが引用されて来ます。(引用がされていない場合には C-c C-y を入力)

後は適当に編集し, 署名をして投稿します。

フォロー時, NewsGroup に現在読んでいるニュースグループ名以外が書いてあったり, 関連すると思われる他のニュースグループがある場合には, ヘッダー部分に

Followup-To :

としてニュースグループの指定をすると, 指定グループにも記事が配送されます。

6.2.4 記事の投稿者に mail を送る

r

現表示ニュース投稿者にメールを送る事が出来ます。

r を入力すると, メッセージ入力画面になるので文章を書いていきます。文章の最後には自分の署名を忘れずに行う様にしましょう。

(記事を引用をしたい場合には, 先ほどと同じ様に C-c C-y を入力)

(注) この場合にヘッダーの From のアドレスそのままでは, 届かない事もあります。

6.2.5 投稿記事のキャンセル

(キャンセルしたい記事の表示画面で)

M-x gnus-cancel-news

を入力すると

Do you really want to cancel this article? (yes or no)

と尋ねて来ますので、y を入力すると実行されます。(自分で投稿した記事のみ)

6.3 rnews など

6.3.1 rnews(mule)

1. M-x rnews
2. n = 次ニュース表示
3. スペース = 画面スクロール
4. p = 前ニュース表示
5. M-j = ニュースグループの指定
6. q = 処理終了
(C-x C-c でも可 → mule の終了)
7. ニュースの投稿、フォワード、投稿者への mail、キャンセルについては GNUS の説明を参考にしてください。

6.4 投稿時の注意点

漢字のモードが合っているか？ニュースシステムがちゃんと動いているか？等のテスト投稿をする場合に、fj.test はなるべく使わない様にしましょう。テスト記事とは言え、屑記事がニュース経由サイトを経てすみずみ迄行き渡ってしまいます。テスト投稿の場合は atr.test を使う様に心がける様にしましょう。ニュースの場合は、ニュースを読む人全員の目にふれる事になります。内容的にメールの方がふさわしい場合があります。例えば、個人攻撃的なもの等はニュースへの投稿はふさわしくない。と言えるでしょう。

mail と同じく、ヘッダーの部分入力にはかな、漢字コードは使わない事

6.5 ATR ニュースグループ

1994.9 月現在で以下のニュースグループが用意されています。

1. atr.general : ATR グループ全体のニュース
News about the entire ATR group
(いろいろな情報が投稿されています。目を通す様にしましょう。)
2. atr.talks : ATR 内で行なわれる, Talk, Meeting 等の告知用
Announcement of technical talks and meetings held in ATR Labs
(サブジェクトで概要がつかめるようにしましょう。)
3. atr.csrl.* : 通信システム研究所のニュース
Communications Systems Reseach Laboratories news
4. atr.itl : 音声翻訳通信研究所のニュース
Interpreting Telecommunications Reseach Laboratories news
5. atr.hr.* : 人間情報通信研究所のニュース
Human Information Processing Reseach Laboratories news
6. atr.orcl.* : 光電波通信研究所のニュース
Optical-Radio Communications Laboratories news
7. atr.question : 質問コーナー
Questions corner
(色々な情報を得る事が出来るかも。気軽にどうぞ。)
8. atr.news : ニュースシステム、ネットワークに関するニュース
Matters related to the news systems and networks news
(ATR のゲートウェイ等のダウン, トラブル等の連絡もながれます。)
9. atr.rec : クラブのお知らせ、趣味のニュース
Group announcements and interests news
10. atr.living : ATR 周辺の生活情報
Lifestyle information
(ATR 周辺のみでなくっても当然 OK。)

11. atr.misc : その他

Miscellaneous news

12. atr.test : ATR 内のテスト用

For internal testing by ATR

13. atr.talks

* atr.talks 使用上の注意 :

- サブジェクト形式を統一しましょう (別項参照)
- メールによる通知との併用は構いませんが、必ず本 NG にも投稿しましょう
- 他 NG とのクロスポストは行なわないでおきましょう
- 予定変更時は古い記事はキャンセルしましょう
- talk の内容等に関する問い合わせには用いないでおきましょう (atr.misc の使用が推奨されます)

*サブジェクトの形式 :

サブジェクト一覧を見ただけで、概要が分かるように形式を統一しましょう

形式 : < MM/DD > < Talk, Meeting の名称 / 内容 > by < 発表者氏名 > [主催者]

例 :

06/29 Talk "LVQ and Self-Organization" by Kononen [hr]

07/02 PP talk by Tom and Jerry [hr,itl]

07/16 SP Regular Meeting [hr,itl]

6.6 mail からの news post について

itlpost@itl.atr.co.jp 宛に mail を出す事によって、ATR ローカルニュースグループ内の atr.itl (音声翻訳通信研究所のニュース) にメッセージ (記事) が投稿される様になっています。atr.itl に記事を投稿する場合には、この mail を送る方法と post-news(gnus-post-news) の方法の 2 種類ある事になります。

第 7 章

リクエストボックス

7.1 はじめに

当初、TSG へ作業を依頼する場合には、Rank A,B,C と別れた各々の依頼書に依頼内容を記述し、その週のコンサルタントまで提出するという方法をとっていました。しかし今後はそれを廃止し、電子メールを用いた Request-box という本ツールに、依頼方法を切替えていきたいと考えています。

本ツールは、上述しているように電子メールを使用していますので、今までのように、わざわざコンサルタントまで依頼書を提出する必要がなく、自分のマシンから作業依頼を行なうことが可能になります。

なお、本ツールでは Rank という考え方はありません。それに伴い、室長決裁を取って頂くという手順もなくなっています。TSG への依頼は全て本ツールを用いて行なって下さい。

7.2 利用方法

利用方法は簡単で、helpme というコマンドを起動すれば、図 7.1 に示すようなメニューが表示されます。そこで、利用する機能を番号で選択します。選択できる機能としては、作業依頼を行なう事と作業依頼一覧表を取得する事です。選択したあとは、表示されるメッセージに従い処理を進めて下さい。

それでは、以下機能ごとに説明します。

```
*****
* [ TSG request box ]   Ver. 1.0      *
*                               *
*   Functions is as follows.         *
*                               *
*       1. send request              *
*       2. receive requests list     *
*       q. exit this shell           *
*                               *
*                               Created by TSG. *
*****

Which function do you use? (1,2...etc) : 
```

図 7.1: helpme 起動時のメニュー

7.2.1 作業依頼を行なう場合

作業依頼を行なう場合は、図 7.1 のメニューの中で、番号 1 を選択します。すると、図 7.2 のようなメッセージが表示され、環境変数 EDITOR に設定されているエディターが立ち上がってきます。言いかえると、環境変数により自分の好きなエディターを選択できるということです。

ここで使用している例は、環境変数 EDITOR に mule を設定しています。

立ち上がってきたエディターには、図 7.3 に示す様に、作業依頼用のフォーマットが読み込まれてきますので、そのフォーマットに従い、作業依頼を書いて下さい。これが作業依頼書になります。

書き終われば、それをセーブして終了します。すると図 7.4 にある様な確認のメッセージが表示されます。ここで n を入力すると、作業依頼の送信処理を実行せず、この時点で処理がキャンセルされます。y を入力することにより、図 7.5 の様なメッセージが表示され、作業依頼が完了します。

作業依頼を正常に受け付けた場合は、図 7.6 にある様な形式の電子メールが返送されます。返送された電子メールのヘッダーにある Subject: に書かれている 5 桁の Request-No が、送られた作業依頼の管理番号になっていますので、覚えておいて下さい。

```

*****
* [ TSG request box ]      Ver. 1.0      *
*                               *
*   Functions is as follows.          *
*                               *
*       1. send request                *
*       2. receive requests list       *
*       q. exit this shell              *
*                               *
*                               Created by TSG. *
*****

Which function do you use? (1,2...etc) : 1

Send request operation start...

Starting mule editor....
□

```

図 7.2: 作業依頼を選択した場合に表示されるメッセージ

```

主題(Subject): 作業依頼のタイトルを書いて下さい。
名前(Name): 御自分の名前を書いて下さい。
マシン名(Machine Name): 作業依頼の対象となるマシン名を書いて下さい。
=====
内容(Contents):

ここに、作業依頼の内容をフリーフォーマットで書いて下さい。
□

[あ]J:--*-Mule: templete6790      (Text)--All-----

```

図 7.3: 作業依頼を行なう場合のフォーマット


```
*****
* [ TSG request box ]   Ver. 1.0      *
*                               *
*   Functions is as follows.         *
*                               *
*       1. send request              *
*       2. receive requests list     *
*       q. exit this shell           *
*                               *
*                               Created by TSG. *
*****

Which function do you use? (1,2...etc) : 1

Send request operation start...

Starting mule editor....

Send request to TSG request box. OK? <y/n> 
```

図 7.4: エディターを終了した時に表示される確認メッセージ

```
* [ TSG request box ]   Ver. 1.0      *
*                               *
*   Functions is as follows.         *
*                               *
*       1. send request              *
*       2. receive requests list     *
*       q. exit this shell           *
*                               *
*                               Created by TSG. *
*****

Which function do you use? (1,2...etc) : 1

Send request operation start...

Starting mule editor....

Send request to TSG request box. OK? <y/n> y

Operation sending ....done.
Send request operation done.

Thank you.
nakai@atrq25 4:57pm<18>
```

図 7.5: 作業依頼処理が完了した時に表示されるメッセージ

```

74 09/28 TSG request box << Request-No 00047 >> Request arrived!! <<主題(
[] 75 09/28 TSG request box << Request-No 00048 >> Received a request!! <<Re
76+ 09/28 TSG request box << Request-No 00048 >> Request arrived!! <<主題(
[---]J:---%{-{+inbox} 76 msgs (1-76) (mh-e show)--Bot-----
Date: Wed, 28 Sep 1994 17:13:50 +0900
From: support@itl.atr.co.jp (TSG request box)
Return-Path: <support@itl.atr.co.jp>
Message-Id: <9409280813.AA19606@atrq25.itl.atr.co.jp>
To: nakai@itl.atr.co.jp
Subject: << Request-No 00048 >> Received a request!!

Received your request now!

                /TSG-group.

[ Request contents ]

主題(Subject): 作業依頼のタイトルを書いて下さい。
名前(Name): 自分の名前を書いて下さい。
マシン名(Machine Name): 作業依頼の対象となるマシン名を書いて下さい。
=====
内容(Contents):

ここに、作業依頼の内容をフリーフォーマットで書いて下さい。

[---]J:-----{show+inbox} +inbox/75 (Text)--Bot-----

```

図 7.6: 作業依頼が正常に受け付けられた時返送されるメールの例

```

76 09/28 TSG request box << Request-No 00048 >> Request arrived!! <<主題(
[] 77+ 09/28 TSG request box [RECEIVED OK] JobList <<in charge of a requests

[---]J:--%--{+inbox} 77 msgs (1-77) (mh-e show)--Bot-----
Date: Wed, 28 Sep 1994 17:21:38 +0900
From: support@itl.atr.co.jp (TSG request box)
Return-Path: <support@itl.atr.co.jp>
Message-Id: <9409280821.AA19733@atrq25.itl.atr.co.jp>
To: nakai@itl.atr.co.jp
Subject: [RECEIVED OK] JobList

  in charge of          a requests of
Locked by      Date      No      Date      Time      Requested by
-----
tagawa         94/09/09      00003  94/09/09  13:10:46  tagawa
               00004  94/09/09  13:12:39  nishi
nakai          94/09/14      00006  94/09/09  13:20:22  nishi
               00007  94/09/09  13:29:27  nishi
               00008  94/09/09  13:38:10  kosugi
               00010  94/09/09  13:51:34  nishi
               00011  94/09/09  14:05:29  kosugi
               00012  94/09/09  14:08:06  taka

[---]J:-----{show+inbox} +inbox/77 (Text)--13%-----

```

図 7.7: 送られてきた作業依頼一覧表

7.2.2 作業依頼一覧表を取得する場合

現在、どれだけの作業依頼があり、誰が担当しているのか等を見る場合にこの機能を利用します。この機能を利用することにより、図 7.7 に示す様な作業依頼一覧表を取得することができます。

利用するには、図 7.1 のメニューの中で、番号 2 を選択します。すると、図 7.8 に書かれている確認のメッセージが表示されます。ここで n を入力すると、作業依頼一覧表の取得を実行せず、この時点で処理がキャンセルされます。y を入力することにより、図 7.9 に示すメッセージが表示され、作業依頼一覧表の取得処理が完了するとともに、電子メールで作業依頼一覧表が送られてきます。

次に、作業依頼一覧表の中身について説明します。作業依頼一覧表は、1 行が 1 つの作業依頼と対応しています。この一覧表に掲載されている作業依頼というのは、未着手の依頼もしくは、現在作業中の依頼のどちらかであり、作業依頼が完了したものは、随時一覧表から消されていくようになっています。掲載されている作業依頼が、未着手の状態なのか、もしくは現在作業中なのかということですが、これは一覧表の中にある in charge of のところに、名前と日付の入っていないものが未着手の依頼ということ。入っているものは現在作業中であり、Locked by に書かれている者が、その作業依頼を担当しているということを表しています。

```
*****
* [ TSG request box ]   Ver. 1.0      *
*                               *
*   Functions is as follows.         *
*                               *
*       1. send request              *
*       2. receive requests list     *
*       q. exit this shell           *
*                               *
*                               Created by TSG. *
*****

Which function do you use? (1,2...etc) : 2

Receive requests list operation start...

Send operation of receive requests list to TSG request box. OK?<y/n> 
```

図 7.8: 作業依頼一覧表を取得する際の確認メッセージ

```
*****
* [ TSG request box ]   Ver. 1.0      *
*                               *
*   Functions is as follows.         *
*                               *
*       1. send request              *
*       2. receive requests list     *
*       q. exit this shell           *
*                               *
*                               Created by TSG. *
*****

Which function do you use? (1,2...etc) : 2

Receive requests list operation start...

Send operation of receive requests list to TSG request box. OK?<y/n> y

Operation sending ....done.
Receive requests list operation done.

Thank you.
nakai@atrq25 5:21pm<20>
```

図 7.9: 作業依頼一覧の取得処理が完了した時に表示されるメッセージ

```

79+ 09/28 TSG request box      [LOCKED OK] Request-No = 00048 <<主題(Subject):
[] 80 09/28 TSG request box    [News from TSG] Request-No = 00048 <<////////////////

```

```

[---]J:--%--{+inbox} 80 msgs (1-80) (mh-e show)--Bot-----
Date: Wed, 28 Sep 1994 17:56:05 +0900
From: support@itl.atr.co.jp (TSG request box)
Return-Path: <support@itl.atr.co.jp>
Message-Id: <9409280856.AA19916@atrq25.itl.atr.co.jp>
To: nakai@itl.atr.co.jp, zako@itl.atr.co.jp
Subject: [News from TSG] Request-No = 00048

```

```

////////////////////////////////////
[ Request-No 00048 ]

```

The person in charge of your request has been chosen.

Name : nakai.

Email : nakai@itl.atr.co.jp

```

////////////////////////////////////
[ Message from TSG ]

```

担当者からのメッセージがある場合は、ここに書かれてきます。
 何もない場合は、[Message from TSG] の行もありません。

[Request contents]

主題(Subject): 作業依頼のタイトルを書いて下さい。
 名前(Name): 自分の名前を書いて下さい。
 マシン名(Machine Name): 作業依頼の対象となるマシン名を書いて下さい。

```

[---]J:-----{show+inbox} +inbox/80 (Text)--23%-----

```

図 7.10: 依頼した作業に担当者が決定した時に送られるメールの例

7.3 利用するにあたって

本ツールは、全て電子メールを利用してやりとりするように作成してあります。本ツールより送付されてくる電子メールには全て意味がありますので、それをお話しします。

本ツールを利用した場合、それが成功したか否かという結果の電子メールを、必ず返すように作成しています。本ツールを利用したにも関わらず、何も返事が返らない場合は、トラブルということが考えられますので、お手数ですが内線 1316 の中井まで連絡お願いいたします。

また、これ以外にも電子メールが送られてくることがあります。これには2つの場合があり、一つは依頼した作業に担当者が決まった場合と、もう一つは、依頼した作業が完了した場合一つになります。

前者の場合は、図 7.10 の様に、担当者が誰に決定したかということを、知らせる内容の電子メールが送られてきます。以後、その作業依頼に対する問い合わせは、この担当者で行なって頂く事になります。

後者の場合は、依頼した作業が完了した時に、担当者が作業した内容を書いた作業レポートが付けられ、図 7.11 の様に送られてきます。これが送られてきて、作業依頼が終了したことになります。

```

81+ 09/28 TSG request box [DELETED OK] Request-No = 00048 <<deleted reques
[] 82 09/28 TSG request box [News from TSG] Request-No = 00048 <<//////////

[---]J:--%{-{+inbox} 82 msgs (1-82) (mh-e show)--Bot-----
Date: Wed, 28 Sep 1994 18:00:57 +0900
From: support@itl.atr.co.jp (TSG request box)
Return-Path: <support@itl.atr.co.jp>
Message-Id: <9409280900.AA20087@atrq25.itl.atr.co.jp>
To: nakai@itl.atr.co.jp, zako@itl.atr.co.jp
Subject: [News from TSG] Request-No = 00048

//////////
[ Request-No 00048 ]

This work is over just now.

worker : nakai.

Email : nakai@itl.atr.co.jp
//////////

主題(Subject): 作業依頼のタイトルを書いて下さい。
名前(Name): 自分の名前を書いて下さい。
マシン名(Machine Name): 作業依頼の対象となるマシン名を書いて下さい。
=====
内容(Contents):

ここに、作業依頼の内容をフリーフォーマットで書いて下さい。

[WORKING REPORT]

作業担当者 : 中井隆浩
作業開始日 : 94/ 9/28
作業終了日 : 94/ 9/28
-----

【作業内容】

ここに、作業した内容が書かれます。

【特記事項】

特記事項があれば、ここに書かれます。

[---]J:-----{show+inbox} +inbox/82 (Text)--Bot-----

```

図 7.11: 依頼した作業が完了した時に送られてくるメールの例

第 8 章

モデムによる接続について

8.1 はじめに

音声翻訳通信研究所では、モデム接続用に atr-modme(133.186.30.6) を用意しています。このマシンにはフリーダイアルアクセス可能になっておりますがこのマシンに、アカウントが無いとモデムを通してアクセスをする事が出来ません。御利用ご希望の場合には、アカウント登録用紙に記入の上 katoh@itl.atr.co.jp まで御連絡下さい。

又、このマシンは外部から IP リーチャブルマシンとなっておりますのでパスワードの定期的な変更や .rhosts を設定しない等、細心の注意を心掛ける様お願い致します。

8.2 atr-modem

8.2.1 登録

- 研究員については katoh@itl.atr.co.jp 迄登録の依頼をします。
- その他外部ユーザ等については、アカウント登録用紙に記入後、研究員の責任者の了承を得たうえで、室長のサインが必要となります。

8.2.2 注意事項

- アカウント登録済み連絡が入ったら、すぐにパスワードを変更して下さい
- ログイン時のメッセージに注意してみてください (last login の時間等)
- パスワードの定期的な変更を心がけて下さい
- root からパスワード変更 mail が届いたらすぐさま変更して下さい
- このマシンでの作業は行なわないで下さい
- ftp 等で中継用に使った場合、使用済ファイルは削除して下さい
- 必要最低限の利用を心掛けて下さい

8.2.3 接続

ex.) pc98 との接続

ソフト=> vt98

モデム=>トレイルブレイザー t2500/2000/1600

1. 通信ソフト立ち上げ

2. atd t 1234567890 リターン

atd : モデムの種類により異なります

t : プッシュホン (p = ダイアル)

12345.... : 電話番号

3. login:, passwd: 入力 (ログインがかえって来ない場合には、通信音後リターンキーを 2,3 回叩いてみて下さい。)

付録 A

プリンター配置図

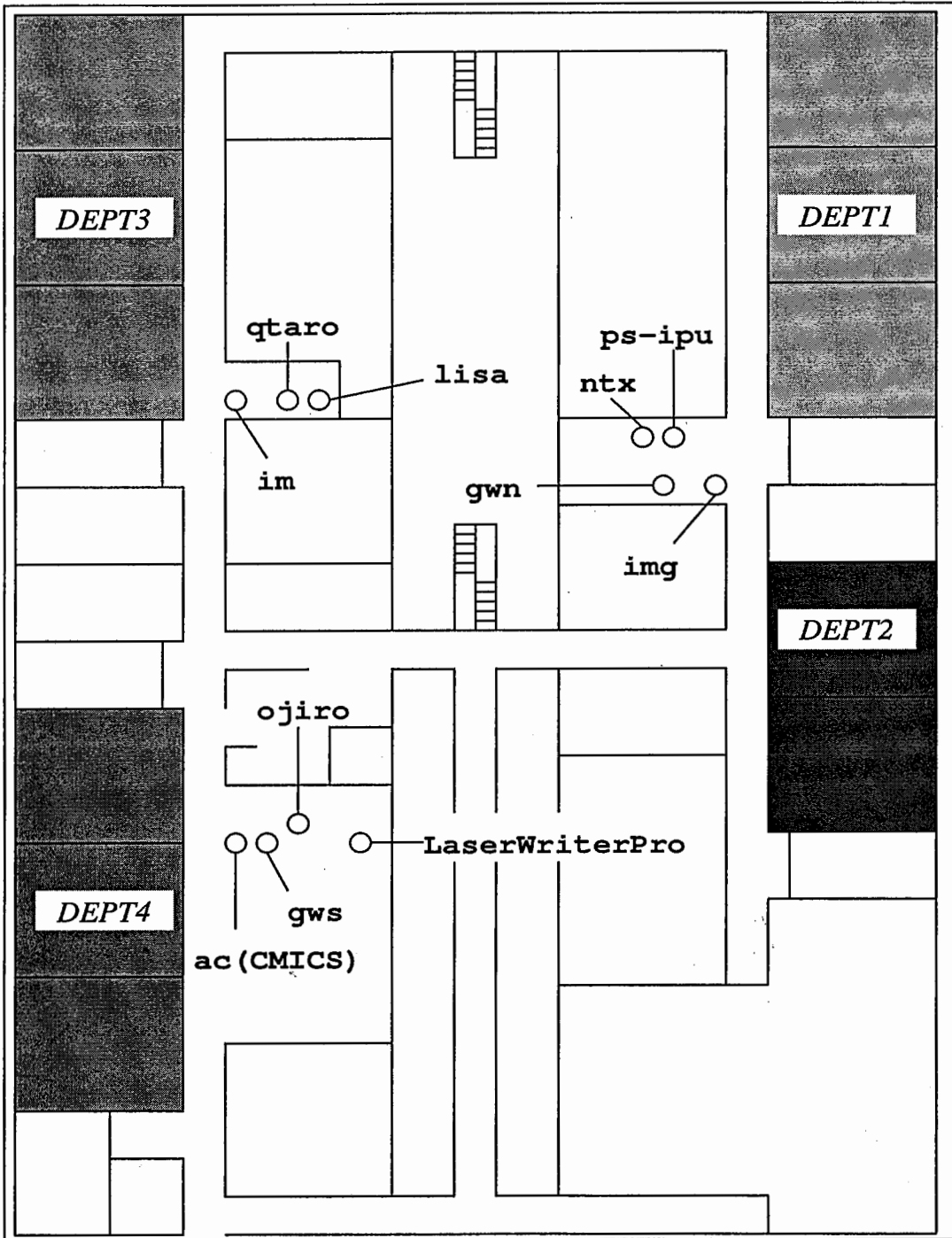


図 A.1: ITL プリンタ配置図